



生涯学習を 学社融合に生かす (その2)

理事長 山本 晋平

学社融合の推進にあたって

社会教育に校区はないため、活動は全市町村的なエリアでの広範囲な展開が可能である。このような社会教育の手に対して学校は家庭、地域と融合したい車軸となる教育課題を明らかにし、その上で協働できる相手を探し、協働組織を編成することができる。

各学社融合体ではそれぞれで内容を定めることができ、創意工夫によって従来の教科、教科書や教室にもない「もう一つ」が得られる。すなわち、教科書(郷土の歴史、伝統芸能・行事、文化財、自然環境など)、先生(職人、芸術家、商店主、様々な機関・施設の職員など)、教室(博物館、図書館、公民館、福祉施設、公園、民間企業など)に加えて、子どもたちを学社融合の仮面をかぶった「異次元の世界」に導くことである。この世界はこれまでと全く画一的といわれる学校の授業を変えて、①地域や学校、子どもたちの実態に応じ、学校と社会が創意工夫を生かして特色ある教育活動が行える時間、②国際理解、情報、環境、福祉・健康など従来の教科をまたがるような課題に関する学習を行える時間を包含した「学社融合の時間」である。このねらいは知識を教え込む授業でなくて、自ら学び、みずから考える力の育成、そして学び方や調べ方を身に付けることにある。

今回、私たちは室戸高等学校、吉良川小学校、吉良川中学校、高知農業高等学校、檜原高等学校の五校を対象学校とし、既に「炭焼き父親」参加者の人選、副教科書づくり、空間づくりなどの具体的作業に入っている。また、総集編として高知市内で「学社融合のすすめ(仮題)」および「第三世代の木炭を目指して(仮題)」の二つのシンポジウムなども計画している。

学社融合に基づくシステム変換と 新システム創造の時代

行政、地域、学校のすべてに言えることであるが、今までの「縦割り行政」と言われるような考え方を通用させずに、学社融合は「人は縦にも横にも切れない」、「タライ廻しではなく、垣根を越えて心が通い合う温かい教育」をすることである。金がないから知恵を出し、行政改革をしながら仕事を見直し、子どもと大人・高齢者を触れ合わせて合意を形成することに努力を重ねなければならない。世代間戦争ではなく、子ども側の合意、大人側の合意である。

このような繋がりを見ていくと、昭和29年にだされた都市計画法においては「学校区を地域の近隣住区に」と定められており、小・中学校は地域の核と考えることができる。学校は学校教育上の施設としてだけでなく防災、情報化、コミュニティスクール、社会教育、福祉施設などとの複合化施設としての利用を拡大しつつ、学校と社会の融合を目途としなければならないだろう。

しかし、学社融合の中にもまだ多くの課題が残されている。たとえば、

- (1) 学と社をつなぐ能力を高め、「学社融合の原点」にもとづき、双方に可能性、メリットのあることを意識的にプログラム化し、プログラムバンクを創造すること。
- (2) 学社融合の運営能力を高める中で、無駄なものと有意のものを判別する習慣を教育に創らなければならない。
- (3) 「融合の発想」の視点に立って、学校教育が充実するがゆえの学校開放の考え方に学校管理規則の変換をしなければならない。

おわりに

学社融合とは学校教育において地域の人々と子どもたちのさまざまな「ふれあい」による授業の充実を意図的に組織し、同時に参画する社会人の社会教

育をも充実させ、「学校と地域社会双方にメリットを生み出す」教育実践方法であり、「人の心を開く＝心のふれあい」である。

学校施設の夜間開放などから地域の人々にもたらされる「自主、自律、管理」による社会教育活動の充実や、そこでの「ふれあい」からさらに地域ぐるみの子育て体制まで醸成させ、市町村づくりに発展する活動とそれらの活動から学校教育充実に還元される狭義の学社融合を意図した学社融合教育活動がスタートではあるまいか。これは必ずしも学校教育と社会教育に限定された活動だけではなく、より広い概念に発展する。学校と地域社会の双方にメリットを生み出しながら、子どもたちの教育に取り組んでいくことにより生涯学習は市町村作りに繋がる。

学校が地域社会に進んで入っていく活動も見逃せない。子どもによる社会奉仕体験活動がその例である。実際の活動は、老人ホームなどの社会福祉施設での手伝い、道路や公園の美化、リサイクルの活動、子ども会活動でのリーダー、献血活動、募金活動など、さまざまなものがある。子どもたちの地域活動は、彼らのなかに思いやりの心や助け合いの心をはぐくみ、地域に根づいた学習体験として発展してゆくであろう。

多くの書籍、論文を引用させていただきましたが、紙面の都合上、引用書籍、論文は割愛せざるをえなくなり、ここに深くお詫びいたします。

—了—

報告 歴史ガイド指導者養成講座

古文書解読の基礎(第3回)

岡村庄造先生の丁寧な指導に感銘



古文書解読を基礎から学ぶ全六回講座の三回目は、「龍馬の生まれたまち記念館」で、9月24日(土曜)午前10時より開催された。連休の中にかかわらず十数名の方が参加し、岡村庄造先生(日本石仏協会理事、土佐史談会理事)の指導を熱心にうけた。

「鳥度(ちょっと)」、「等閑(なおよざり)」や「加之(しかのみならず)」などの難解用語から入り、街道は「海

道」と書かれていたというような話など現代人が誤解しやすい字句を経験もふまえて指導。その後、自分でとられた岸本の地震記念碑や斗賀野入寺山アミダ堂絵馬の解読に挑戦。大日本国地震之図という貴重な史料も提示され、往事の庶民生活ぶりなどまで話は楽しくひろがった。

その他、十返舎一九の「金草履四国へんろ獨案内」や龍馬の俚謡などの解読も指導、二時間の丁寧な指導に受講者は皆感銘をうけた。

なお、次の岡村先生の指導は、平成18年1月21日(土曜)に、「龍馬の生まれたまち記念館」(高知市上町)で午前10時より。



平成17年9月21日 教育センター分館にて

テーマ:「教育相談の事例と教育談活動の進め方」

問題提起: 松本 文彦 (元高知北高等学校教頭)

今回の月例会は、元高知北高等学校教頭で、現在心の教育センターのカウンセラーでもある松本文彦先生にお願いし、標記のテーマで講演を頂いた。

(講演要旨)

新聞報道によれば、2003年度、小中学校を30日以上欠席した児童生徒数は12万6千人。内8万人は適応指導教室などにも通っていない。適切な指導を受けていないという。まことに深刻な状況だ。

家庭教育アニメータの皆さんをはじめ、多くの関係者に支援を受けないと、学校運営が成り立たない場面もあるのではないかと。

とりわけ、孤立している保護者の不安やしんどさを、地域の皆さんに受けとめていただければ、これほど力強い味方はない。

些細なきっかけで挫折する子どもたち、親や先生の期待に応えるあまり、息切れて落ち込む子どもたち。気がかりなことは自分の思いを表現することが下手なことだ。心の中の寂しさやつらさを話すことができない。悶々とした内面を話す前にすぐ行動に出てしまう。「うるさい」「うざい」「死ぬ」等々の言葉の暴力から家庭内暴力、校内暴力へとエスカレートする。

- とりとめもないトラブルから友だちに暴力をふるってしまう。仲裁に入った担任、学年主任に暴力を繰り返す小学生。(小6)
- 苦しさ、寂しさに耐え切れず、リストカットに走る女子生徒。(中3)
- 校則違反をとがめられ、ホーム主任の襟元をつかみ、殴りかかった高校生。(高1)

これらの子どもたちの共通点は、カッとなったときの状態や気持ちを憶えていないことである。記憶がスポッ抜けている。立ち会った先生方は詰問するが曖昧な返答しか返ってこない。

また暴力を振るってしまった。大変なことをしでかしたと自己嫌悪に陥っている。その上に、記憶がとぎれてい

ることへの不安がますます増幅する。悪循環の始まりだ

- 暴力を振るったことへの反省
- 友だちはそんな自分をどんなに見ているだろうか。
- お父さん、お母さんに見捨てられるかもしれない。

不登校を経験した子どもは、お母さんや先生は「僕の半歩後を歩んでほしかった」「一緒に時間を過ごしてほしかった」としゃべってくれ、「時間をかけて自分の道を探りたかった」と訴える。

たわいない「おしゃべり」でもいいし、スポーツで汗を流すのもよい。「折り紙」「ビーズ作り」、「テレビゲーム」、「お百度まいり」でもいい。異口同音に「カーナビ人生はもうイヤだ」と話してくれる。

講演のあと、先生から提起された「部活動で挫折し、学校を辞めたいというY彦君の問題をどう受け止めるか」について研究協議を深めた。主な意見は次の通り。

- 環境を変えるのも一方法だろう。(転校、転部、留学等々)
- 将来が見えない(就職できない)社会環境が問題ではないか。
- 短絡的な考え方が問題ではないか。
- 中学校の進路指導に問題があったのではないか。
- 生育の基盤が弱い。家庭の狭い考え方はいかなものか。
- 閉じこもるなど逃げでは解決できないのではないか。
- バレーボールがダメなら水泳部へというような切り替えも大切だ。

(文責: 廣瀬)



お知らせ

家庭教育アニメータ月例会

講演：「子どもの生活態度(遊び、学習、しつけ等)」

講師：中西 稔

(元希望が丘学園園長・現特別養護老人ホーム「はるの若菜荘」施設長)

家庭教育アニメーターは、家庭教育にご興味のある方やお悩みを抱えている方でしたらどなたでも参加できる会です。第5回目は講師として中西 稔先生をお迎えして10月19日の午後1時30分より教育センター分館南棟2階中講義室にて、子どもの生活態度(遊び、学習、しつけ等)について話し合います。ぜひお友達をお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

3時から、参加されている家庭教育サポーターの方が

一般の方からの相談を受けていますので、教育についてのご相談のある方もご参加下さい。

日時：平成17年10月19日(水)
午後1時30分～3時30分まで

場所：教育センター分館南棟2階中講義室(駐車場有)

参加費：無料

お申込：事前申し込みが必要です。

NPO 高知県生涯学習センターで電話・FAX・電子メールにて受け付けています。

歴史ガイド指導者養成講座

古文書解読の基礎(第4回)「野の石碑を読む」

桂浜公園一帯には、長宗我部元親の最後の居城であった浦戸城址とその城下町には、歴史を語る石碑が多くあります。遠州掛川より入国してきた山内一豊に抵抗した一領具足の悲劇を謳いあげた土井晩翠の詩碑はじめ龍馬にちなむ記念碑も数多くあります。

秋の一日ハイキング気分でご参加下さい。

日時：平成17年11月12日(土) 午後1時～4時まで

集合：午後1時 坂本龍馬記念館

案内役：岩崎 義郎 参加費：無料

お申込：事前申し込みが必要です。

NPO高知県生涯学習センターで電話・FAX・電子メールにて受け付けています。

懇親会：午後5時より(会費5千円)

懇親会に参加される方のために、午後7時高知市内行き専用バスが出ます。

コース：浦戸城 本丸、石垣、天守台跡→縄張り、掘り切り→(浦戸大橋)→一領具足供養の碑、六体地蔵→宇賀神社→(南浦)→(掘り割り坂)→(浦戸港)→稲荷神社、安政地震の碑→片岡半斎墓→戎神社、桂濱学園の碑→(みやげ物店)→砲台跡→龍頭岬(坂本龍馬像、高知高校校歌、豪気節、吉井勇歌碑)→坂本龍馬顕彰碑(板垣退助、細川潤次郎)、田中桃葉貢太郎碑→大町桂月→横山黄木詩碑→川田鉄弥・浦戸城址の碑→高浜虚子歌碑→坂本龍馬記念館→民宿「浦戸」

散策まとめ：民宿「浦戸」午後4時～5時

アロマテラピー入門「チャレンジ! アロマグッズを作ろう」

最近、手軽に購入でき楽しめるようになったアロマテラピー。そのアロマグッズを自分で作ってみませんか?今回は全3回にわたり開催いたします。

なお、どれか一つだけでも参加できますので、お友達も誘ってお気軽にご参加ください。

- 第1回：11月8日(火) 午後6:30～午後8:30「化粧水とフェイスクリーム作り(参加材料費2,000円)」/締切：10月28日(金)午後5:00
- 第2回：11月15日(火) 午後6:30～午後8:30「ボマダーとリップクリーム作り(参加材料費1,000円)」/締切：11月4日(金)午後5:00
- 第3回：12月1日(木) 午前10:00～午後14:30「マルセイユ石鹸作り(参加材料費2,000円)」/締切：11月18日(金)午後5:00

※第3回の場所は、教育センター分館北棟2階となります。

講師：AEAJ認定アロマテラピーアドバイザー 和田 真理

集合：教育センター分館南棟2階中講義室(無料駐車場あり)

定員：各回8名

お申込：事前申し込みが必要です。

NPO 高知県生涯学習センターで電話・FAX・電子メールにて受け付けています。



発行 2005年10月6日
 NPO高知県生涯学習支援センター(KOLEC)
 〒780-8031
 高知市大原町132番地(教育センター分館内)
 電話 088-833-0022 FAX 088-833-0023
 KOLEC 電話進路相談の電話 088-833-0086
 電子メール info@kolec.jp
 URL http://www.kolec.jp
 発行人 理事長 山本晋平
 編集 NPO KOLEC編集室/印刷 中島出版印刷

